



# がんば

— 150号達成記念特集号 —

平成元年～平成12年  
101号～150号



平3



平7



平9

表紙を飾った  
子どもたち

島原市立第三小学校育友会

1. みどりの風に声あげて  
よばばこたえん眉山の  
尊き姿 仰ぎつつ  
学ばは心清きかな  
島原第三 誇りあり
2. 進みゆく世の新しき  
道を歩まん わが願い  
みおしえかたく守りつつ  
たゆまず 励みゆかんな  
島原第三 誇りあり
3. しらぬ火 燃ゆる有明の  
海を平和のかがみとし  
身は若草の すくすくと  
希望のかなた ささんかな  
島原第三 誇りあり

はつらつと行進の波にのって

## 校歌

島内八郎 作詞  
伊藤英一 作曲

みどりの風にかぜにこえあげて  
よばばこたえんまゆやまの  
とおときすがたあおぎつつ  
まなべばこころきよきかなしまば  
りーだいさんほこりあり



ご挨拶



育友会長 本多平治

二十一世紀の幕開けと共に、育友会広報誌「がんばん」が一五〇号を迎えました。これもひとえにこれまでの育友会員や広報部員の方々の活動の賜物だと思えます。

この様に広報記念誌を発刊する事や、それに向けてバザーを開催する事など他校の育友会では、あまり例を見ない事であります。これは三小の保護者の皆様、先生方、地域の方々の大きな協力があったからこそ出来る事です。また、日頃行われている活発な育友会活動も、脈々と受け継がれてきた三小の伝統だと思えます。

現在、教育をとりまく環境は、決して明るいものではありません。しかし、三小は子どもも親も先生も皆元気です。この元気が新しい二十一世紀を生きていく力の源となる事を願ってやみません。

この記念誌発刊とバザー開催にあたり、多大な御協力をいただいた関係者の皆様方、また忙しい中にも会議を重ねて下さった委員の皆様方にも心から感謝いたします。ありがとうございました。

ご挨拶



校長 松島利彦  
(平成十一年～十二年)

「がんばん一五〇号記念特集号」発行を心からお喜び申し上げます。昭和三十七年誕生した「三小育友会会報」が、新たに「がんばん」の名称で生まれ変わったのが昭和四十年ですから、会報としては三十九年の歴史を積み重ねてきたこととなります。

先の一〇〇号記念特集号がまさに昭和の時代の締め括りであるならば、今回の特集号は新しい平成十余年の集録となります。

子ども達の姿、親の想い、それを取り巻くその時代時代の世相を「がんばん」は語ってくれています。

三小の子ども達の健全な成長を見守りながら、より親しまれる広報紙づくりをという想いのもとに工夫を重ねてこられた成果が、長崎新聞「PTA新聞コンクール」において、平成九年から三年連続の「奨励賞」として結実したものと思えます。

一五〇号記念特集号発行にあたり、広報活動に従事してこられた多くの方々に、心をこめてお祝いと感謝の言葉を贈らせていただきます。

平成の歴代校長

忘れえぬ三小



伊藤 富幸  
(昭和63年～平成2年)

輝かしい新世紀を迎え、三小育友会のご隆盛をお慶び申し上げます。

先日、二十世紀を締めくくる記念すべき「がんばらば」一五〇号の発行、今回は、二十一世紀の幕開けを飾る記念特集号の発行を心よりお祝い申し上げます。

さて、私は昭和二十八年に新採教諭として三小に赴任し、八年間勤務させていたとき、そして、校長として昭和六十三年より平成二年度の退職まで三年間勤めることができました。まさに三小に入学し三小を卒業し、三小で育てられたという心境です。前後十一年間の勤務中の思い出が、湧き出る泉水の如く浮かんできます。

夏休みを返上しての全教職員による自作教具の作成、ソニー賞の受賞、千数百名の児童の運動会、唱和天皇崩御による平成への年号変革、普賢岳の噴火等枚挙に遑なく、何れも忘れえぬ思い出です。

この思いを糧に七十路を元気に歩んでいます。三小育友会の更なるご発展を祈念致します。

災害時の思い出



橋本 徹也  
(平成3年～平成5年)

私が三小校長として赴任したのは平成三年四月だった。平成六年三月まで災害のまっただ中の勤務だった。安中の人達の避難所となったのは、あの六月三日の夕刻からだ。保健室には坂本内科も越して来た。肉親の安否が分からない人達もあり、体育館は殺気立っていた。救援物資の即席ラーメンが届けられたが、お湯がない。給食室に鍋釜はそろっているのだが私は火のつけ方も知らない。面喰らったものだ。職員宅、事務室も電話の利用者が絶えない。

その日から、校長室に寝袋で泊まることになった。宿直室には男の先生たちが泊ってくれた。他校の若い教師も応援にかけつけ泊ってくれることもあった。有難かった。

第五小学校を三小に受け入れることになり、午前・午後の二部授業も行われた。その後、仮設校舎を三小運動場に作るのと相談があったが、仮設校舎は隣の白山児童公園にしてほしいとPTAとともに強くお願いした。結局、土俵のそばと白山児童公園とに仮校舎ができた。五小の鶴田校長と相談して三五小(珊瑚小)と、しゃれた校名をつけて、いい学校生活を過ごそうと子ども達に話したりした。鶴田校長さんとは毎日、その日の予定について相談したものだ。子どもたちの間では目立っていたが面白いなど見られなかったが、「五小には救援物資がたくさんくる。本、果物、運動具...それなのに三小には、

ほとんど届かない。どうなっているのか!!」と怒った保護者の一人が五小へ文句をつける一件もあったそうだ。  
あの時期の降灰はすごかった。PTAの灰除去作業では、トラック何台も降灰袋を積んで運んだ。あれから、もう十年が経った。学校もずい分ときれいになっている。(国見町多比良に居住)

宮内庁に永久保存される島三小



梅林 次生  
(平成6年～平成7年)

教諭、校長として勤務した十四年間には、地区の象徴白山の取り崩しと旗池、低地の埋立、百周年記念事業、同窓会の結成、同窓会報「白山」の発刊、木造校舎の焼失と新校舎の落成に土俵の建設などがあった。特に記しておかなければならないことは、昭和天皇、皇后両陛下が昭和三十六年四月に御行幸なされたことに対して、宮内庁から記録に残すために調査に参上されたことです。昭和天皇は日本各地をくまなく御行幸なさっておられますが、小学校の御行幸は島三小のみだそうです。平成六年十一月十八日に三名参上され、どうして田舎の小学校を御行幸なされたのか不思議に思っているとの質問に、本校が第一回理科教育ソニー賞大賞を授賞したと答えると納得されました。往時の写真、百周年記念誌、記念碑、往時の理科室(現一年の教室)などを調べられ、写真や記録などを借りて行かれた。このことは宮内庁の記録集の中に永久に保存されること。誠に名誉で光栄のいたりです。

## 共汗心身錬磨



田中正之  
(平成8年)

三小には昭和四十五年と平成八年の二度勤務し、両期間を通し枚挙に暇がない程の思い出があります。当時、秋後半より冬季にかけて、運動場走行記録をカードに記録することによる半島一周マラソンを実施していました。子供達は授業以外の総て時間に我武者羅に走り捲り、短期間で半島一周完走者が続出し、学級全体で日本一周を、学校全体で世界一周を目指し、完走カードを新装の体育館の内壁に貼並し練習量を競いました。先生も子供に負けじと共走し、お陰で酷寒時でもストープは不要でした。

或時、島原半島を実走しようということになり、無謀とも思えた半島一周を昭和五十年一月、六人の先生が敢行しました。これが島原市教職員半島一周駅伝として三小を拠点に毎年継続実施され、今迄延べ七三〇人もの先生達が走り、今度(平成十三年二月)が第二十五回の記念大会になっています。

## 「島原第三 誇りあり」



中島一雄  
(平成9年～平成10年)

伝統ある島三小育友会報誌「がんば」の一五〇号達成、おめでとうございます。育友会役員・広報部の方々の「たゆまざる 歩みおそろしかたつむり」のとおり、熱心な活動の積み上げの成果だと敬意を表します。私は三小で、教諭として昭和五十一年から七年間、校長として平成九年から二年間の計九年間勤務し、多くの方から支えていただき感謝しています。昭和五十一年の創立百周年記念・カプセル埋蔵、昭和五十五年の木造校舎全焼、昭和五十六年の新校舎落成・土俵場の新設等です。当時の育友会役員さんの行動力には目を見張ったものです。また、平成十年の長崎新聞全ページの「島三小ふれあい」の作成も心に残ります。学校キラキラ、地域との交流が自慢となりました。校歌の最後に「学べば心清きかな 島原第三誇りあり」と歌われているとおり、いつまでも「誇れる学校、白山地区」であってほしいと祈っています。

(前校長・現島一小校長)

## 「がんば」記念誌発行を お祝いして



同窓会長  
山本 薦五郎

ざら紙だった一枚のガリ版刷り「三小育友会報」が生まれて、今年で三十九年になります。三年後には「がんば」という立派な名前がつけられて一五〇号。形も内容もすっかり見違えるほどよくなっています。

その長い歴史と伝統を守り、発展させて来られた歴代編集担当の会報班、広報部の皆さんのご苦労と、原稿を寄せられた会員の方々のご協力に敬意と感謝を申し上げ、心よりお喜びいたします。

市内湊地区のシンボル「がんば」命名の経緯や、題字の独特の字体、名行司・式守伊三郎さん揮筆の勘亭流については、名付け親の田口さんや、お世話下さった小鉢さんの思い出が(一)〇号記念誌に語られております。

「がんば」前身の育友会報については、生まれるまでのことを私もご紹介しましたが、地域の多くの方々のご協力で「がんば」生まれ、今日まで育てられました。

そしてこれからも皆さん方とともにますます発展し、子供たちの健全な育成が行われますと、お祈りいたします。

# —平成元年— フレッシュ号



## 南高のペスタロッチ



近藤源三郎先生  
(西有家町出身)

(県教育センター所長：塚野克己)  
近藤は、明治十八年から湊小学校に奉職し、二十六年校長になった。

月俸十二円。二十七年七月、暴風雨来襲。県下一円を吹き荒らした台風は、特に南高に甚大な被害をもたらし、校舎は一瞬にして倒壊した。茫然自失。しかし、歎難に遭遇して奮い立つのが近藤の真骨頂。彼は早速校舎再建に乗り出した。

父兄に対しては、教育の一刻もゆるがせにできない重要性を説き、一方、足繁く役場に通って費用の捻出を訴えた。その効あって、町民たちは校舎再建のためなら、過重の賦課もあえて厭わずと、積極的な協力を誓った。せつかく再建するからには、県下第一等のモデル・スクールにしようとして、競って寄附を申し出る町民が相次いだ。三十年、新校舎完成。県視学岡本利宗(南高出身)は、規模宏大、近代の様式の新校舎を視察して、「堅牢壮麗殆ど欠点なし」とその壮大さに目を見張った。

次に、近藤は生徒の情操教育の必要を痛感した。体操は、既に十九年から他校にさきかけて実施し、運動会も開いていたが、音楽だけは遅れていた。彼は、風琴の購入を思い立った。隣の大手小学校には、既に風琴が備えてあった。早速、購入のための寄附を募った。近藤の日頃の精励ぶりを認めている父兄は、快くこれに応じた。集まった金額は四五〇円。予想を大幅に上回る額に感謝して、風琴一台に加えて動物標本、亜鈴、幻燈器を購入した。児童の歓喜の声を聞いて、彼は満足した。

学校内の問題が一段落すると、近藤は目を外に向けた。当時、青年の気風は悪く、それが児童に好ましくからぬ影響を与えてもいた。近藤はこれを憂え、夜学会を設けて学業の補習をなし、学校に行かない子守りのために、子守教育を行うことにした。また、青年会を組織して矯風会と名づけ、弊風の矯正につとめた。組織は次第に広がり、十五歳以上の青年が全員加入する湊町青年会へと発展し、教化の実があるようになった。湊小学校に奉職すること実に十七年。その間、近藤が湊町に印した足跡は大きい。生徒はもちろん、卒業生からも慈父のように慕われた。県は、三十二年・三十三年の2回にわたり、また南高来郡役所も金一封をおくって、その功を賞した。「湊町の信用を受くるの厚きこと非常にして、其のなさんとすることとして成らざることなく、経費のごときとして議会の協賛を与へざることもなく、企画する事業また一として有志の賛同を得ざることもなし。」と言われるほど、町民の信望は絶大なるものがあった。



青い目のお客様

四年三組 金子 正子

皆さんは、外国人から突然話しかけられたらどうしますか？

私も、中学生の時から片言の英語で文通していたアメリカ人の女性が、急に「五月に日本へ来る。」と手紙をよこしました。しかし、彼女ジニーがいざ来てみると、すてきな女性で心配事もどこかへふつとんでしまいました。

さて、彼女を四の三の教室に迎え、子どもたちと交流のひとつときを持ちました。当日、子どもたちは、やや緊張気味でしたが、全員が自己紹介をし、折り紙や花の贈り物を手渡したころには、すっかりリラックスした様子。いっしょに歌ったり、写真をとったり、給食まで食べ、ジニーはさよならをしました。お互いにすばらしい機会となりました。

# 六年生のびのび体験学習

「田植え」

六年二組担任

古瀬唯二



六月二十八日（水）は晴天に恵まれ、六年生全員による初めての体験「田植え」が行われました。二年生の元気な子どもたちも見学に来て、たいへん盛り上がりました。

目的の地に着くと、さっそく農協青年部の方々の説明がありました。

六年生の子どもの説明を聞く態度は真剣そのものです。初めてのことで、少し緊張していたのかもしれませんが、説明の後、実際に「田植え」

をしました。裸足になり、田



んぼの中へ足を入れるとすぐ「ヌチヨヌチヨして気持ち悪かあ。」の音が、あちこちから聞こえてきました。みなさん、足の裏がヌチヨヌチヨする感じはわかりますか？たいへん気持ちいい！ものですよ。六年生を四つに分け、順番に田植えがすむと、子どもたちの足は田んぼのドロでまっ黒け。中には、着ていた服もまっ黒けになっていた子どもがたくさんいました。とてもよい体験をして子どもたちも満足そうでした。

農協青年部の方々、本当にありがとうございました。

## 楽しかった

### もちつき大会

六年一組 青木京子

十二月八日は、待ちに待ったもちつき大会の日でした。この日のために私達六年生は、農協の人達といっしょにお米を作りまし。四月ごろに種まきをして、六月ごろに田植えをし、十月ごろに稲刈りをしました。だから、もちつき大会の日をとても楽しみにしていました。

もちをつく時は、二人一組でつきました。ねらいを定めてついたつもりだったのに、うすをたいたしてしまったり、きねが頭にあたって、大きなたんこぶができた人もいました。

もちを丸める時が、最高に楽しい時でした。手にかたくり粉をつけ、アツアツのもちを丸めます。かたくり粉がついていなくて、もちが手から取れなくなったり、あんこもちを作る時に、もちの中にあんこがうまく入らず、ぐちゃぐちゃになったり、かたくり粉を顔や頭につけられて、おばけみたいになった人もいました。いろいろあつたけれど、おいしいもちができた楽しい一日でした。

## この町 あの町 三小

### 父兄の参加が盛んな町

みなと 林田廣子

私達の住んでいるみなとは、三小区域中心部にあります。年々児童の数も減少している中、昭和六十年から、湊新地、広馬場、中組の三町内の合併で発足されました。今年のみなどは、世帯数三十七件、児童の数五十六名から成り立っています。

私が、育友会の仲間に入つて最初に感じた事は、お父さん達の参加が本当に多いという事でした。現在は、残念ながら遊び場も時間もうばわれてしまった子供達ばかりです。そんな中で、野外活動にとりくんでいる子供会の役割は大きいと思います。それには、やっぱりお父さん達の協力がいかに大切であるか！ではないでしょうか。（もちろんお母さん達もです。）

子供達にとつての大切な一年間、できるだけいい思い出が残るよう、有意義な一年でありますよう、育友会の一人として見守っていきたく思います。楽しい思い出をたくさん残したいと思います。



### やさしい子ども達

津町・有馬船津 池田絹代



私達の津町・有馬船津町内会は、二町内合併の町です。町は、昔のおもかげがまだまだたくさん残っており、近くには有名な銀水があります。二町内合併しても、子ども達の人数は年々減少していきま

すが、現在、男の子十八名、女の子十八名で、校内球技大会など皆で力を合わせて仲良くやっています。また、保護者の皆さんが、育友会行事の時など、気持ち良く進んで協力してくださいるので、大変良いと思います。子ども達も皆大変仲が良く、上級生は下級生の面倒をよく見てくれるので、安心して集団登下校の時などまかせられます。明るくやさしいこの子ども達も、それぞれ成長していきますが、町内の活動が良い思い出として残るように、私達父兄も子ども達と一緒に頑張りたいと思います。



大分県  
豊後高田市立河内小学校と

# 兄弟校締結!



8月21日 河内小学校にて調印式に臨んだ本校児童代表

雲仙普賢岳が一九八八年ぶりに噴火し、過去の島原大変の恐しい歴史と共に様々な形で不安を感じさせたり、自然の凄さを見せつけてくれます。そこで、噴火直前に鍛錬遠足で普賢岳へ登った六年生に感想文をお願いしました。

## 普賢岳と遠足

六年三組 七 條 敏 和

はじめ、普賢岳がふんかしたと聞いてびっくりしました。ぼくたちは、遠足で普賢岳に登りました。その時を思い出すと、いろんなことを思い出します。

ぼくがいちばん心にのこったことは、頂上は景色がよかったことと、ころんだことです。この日は晴れただったので、島原半島をぐるーつとながめられました。帰りに四・五段の階段があつて、ぼくは階段の上から階段の下までころげおちました。たんこぶができました。いろんなことがあつて楽しい遠足でした。その遠足でいった普賢岳がふんかするなんてとしんじられませんでした。

お母さんとぼくは見ました。白けむりがすこし見えました。ぼくは、その時に「遠足の日にふんかしないでよかったな」と思いました。このへんはあんまりひ害をうけないなと思つていたらおおまちがいでした。むかしもふんかして地震が何回かあつてみたいで、それで眉山がくずれて死亡した人が多いと聞きました。やばいなと思いました。眉山がくずれませんように。

## 三小養護教育の歴史

◆昭和三十七年四月

愛護学級設置

児童数：男子八名・女子四名

担任：上田進教諭

◆昭和五十年四月

仲よし学級設置

(固定学級)

男子二名・女子二名

(通級学級)

男子一名・女子四名

【愛護学級】

日常生活に差し支えない程度に身の事柄を処理することができ、「軽度の精神薄弱児童」を対象とした学級で、健康な体づくり、基本的な生活習慣の確立、社会生活に必要な言語の理解や表現などを指導の中心にしている。また、通常の学級の児童と活動を共にする機会(交流教育)を設けて、集団生活への参加が円滑に行えるよう配慮してある。

【仲よし学級】

自閉・かん黙・習癖などのため、社会的適応能力の乏しい児童を対象とした学級で、自閉児は対人関係を中心として多くの問題を持っているので、各教科等の目標のほかに、日常生活習慣を身につけさせること、感覚機能や運動機能の発達を図ること、対人関係を改善し言語の理解と使用

を促進する。個別指導や小集団指導の場を設け、刺激の少ない部屋を用意したり、視聴覚教材を作成・活用したりする等工夫している。

かん黙児は、とりわけ対人関係の不安の緊張が高いため、教師との人間関係を基盤に、遊戯療法などを取り入れ、集団への参加が円滑に行われるよう配慮して指導を行っている。

◆市内の小・中学校における特殊学級の児童数

(平成二年度)

- ・愛護学級
  - 一 小：四名 一 中：五名
  - 三 小：四名 二 中：休級中
  - 五 小：休級中 三 中：二名
- ・仲よし学級
  - 三 小 固定学級：五名
  - 二 中：一名
  - 三 小 通級学級：一名
- ・ことばの教室
  - 二 小 固定学級：五名
  - 二 小 通級学級：十二名

\*通級学級  
週、又は月に何日か決められた日に通学して学習する学級。





霊南緑の少年団全国植樹祭にて大活躍!



五月二十日、長崎県民すべての願いが通じたようなすばらしい天気のもとに、天皇・皇后両陛下のご臨席のもと、百花台森林公園にて第四十一回全国植樹祭が開催されました。この大会に、霊南子供会で構成される霊南緑の少年団が参加し活躍しました。この中には本校の六年生も五名参加しました。

緑の少年団は、前青友会副会長の熊本勇治さんを団長に、男女二十名の児童で昭和五十七年に結成され、緑のハネ募金、緑化週間の花植え、霊南児童遊園の小鳥の世話、宿泊



訓練等を通じて花や緑や自然を愛し、健全な心身の成長をめざした活動を行っています。今回の植樹祭に備え、二年前より特別訓練や合宿を行い、本番前のリハーサルも三回を数え、晴れの舞台へ望みました。当日は、一万二千人の観衆が見守る中、国旗掲揚・降納・記念播種の大役を務め、大会の最後には初夏の陽が輝く大空に、子どもたちの希望と二十一世紀への夢を乗せた風船を放って、無事大会を終了しました。

参加した六年生は、次のとおりです。(写真右より) 小森 武君(六年二組) 浜崎浩志君(六年一組) 七條敏和君(六年三組) 野口尚徳君(六年二組) 末永卓也君(六年二組)

42.195 km

世界記録に挑戦!

本年度卒業生一三一名が、卒業の思い出に保護者、先生方と一緒にフルマラソンと同じ距離42.195kmのリレーに挑戦しました。



(思いでの三小で最後の全力疾走)

卒業記念

合計二〇〇名の参加者で、九時十五分の号砲と共に各組第一走者がスタート、一周一五〇mの運動場を二八一一周のリレーです。三小を最後に退職される伊藤校長も、各組へ飛び入り参加され、卒業の思い出に花を添えていただきました。気になるタイムの方は、

▽一組：2時間8分20秒  
▽二組：2時間6分13秒  
▽三組：2時間13分24秒  
ちなみに、世界最高タイムは2時間6分50秒です。みなさん、おつかれさまでした。



一南下川尻子供クラブ

日頃よりユニークな子供クラブ活動を繰りひろげている南下川尻子供クラブが夏休みの思い出に、校長先生や町内担当の先生をゲストにとうきび祭りを開催しました。

これは、町内の米田さんの御好意によりお借りした農地を「南下川尻子供クラブ百姓体験農場」と名付け、子供たちの小作料は無料として開放し、春よりトウモロコシ作りを精を出しました。近所のおじいちゃん達の協力を受け、種まきまではスムーズにい

ましたが、牛の堆肥の前には、こまり顔、「くさかー」、「手でまかにゃんとー」と言いつつ何とか種まきも終り、少しづつ大きく育つ芽を楽しみに待ちつつ、夏休みの収穫を迎えました。

とうきび祭り当日は、お母さん方の協力によるおでん、かき氷、ヨーヨー等の夜店まで出店し、中には町内会長のケン玉ショーまで飛び出して楽しい一夜を過ごしました。

さっそく、秋の収穫へ向けてじゃがいも作りも始まり、今度は秋のカレー祭りが楽しみに待たれます。自然に触れ合う事で親子の絆を深める南下川尻子供クラブ、次は何の企画が出てくるのやら楽しみです。



# 噴火に負けない三小の子ども達

さあー二期だ 心で作る珊瑚礁(三小)

がんばる三五小(珊瑚礁)の子どもたち



さあー二期だ。色とりどりのヘルメット姿の子どもが続々と登校してくる。やっと日焼けの顔にもどった。交通指導のおじさんに「おはようございます」元氣いいあいさつをとばす。クーラーのある教室、水まきされた運動場が子どもたちを待っている。

さあー二期だ。全国からとどけられる温かい心に心でこたえる二期だ。明るい心、すなおな心、感謝の心、がまんの心、不屈の心…心のアンテナをときす二期だ。

早くあさまって

三小六年 江崎 多恵子

皆様方にたくさんの御見舞などいただいで大変うれしく思います。

ついこの前まで緑がたくさんあったのに、木も家もみんな灰色になってしまいました。いつになったら緑色の島原市にもどるのでしょうか。

わき水も「灰が混じっているんじゃないかな…」と思うと、前みたいにくさん飲めません。いつになったら火山活動がおさまるのでしょうか。

灰を吸ってたおれた人、ぜんそく、じんましんがひどくなった人もいます。早く緑が



クーラーのある教室で学習する三小の子

いっぱい美しい島原市にもどってほしいと心から思っています。



仮設校舎で元気に学習する五小の子

仮設住宅での生活

五小六年 橋川 久美子

私は現在、仮設住宅で生活をしています。入居してまだ一ヶ月余りしかたつていません。近くにもあまり友達がいません。少しさびしいです。でも、家族全員がそろって生活できるということがとても嬉しいです。ふかふかのふとんにねれて安心しました。やっと落ち着いた…という感じ私にとって、家があつて、

家族がいるということだけで何も言うことはありません。市役所のみなさま、そしていろいろな品物を送ってくださいました。本当にありがとうございました。



## 【児童数の推移】

児童数の推移				
学校	月	4月	6月	9月2日
第三小学校		723名	529名	653名
第五小学校		782名	296名	501名



# 普賢岳に揺れた この一年

月日	曜日	学 校 行 事	育 友 会 行 事・そ の 他
6 / 1	土	・三小創立記念日 ・緊急避難訓練、集団下校を実施	
3	月	・五年生宿泊体験学習に出発 (諫早少年自然の家～4日迄)	・普賢岳の噴火災害により大火砕流発生 (死者・不明者43名)
4	火	・普賢岳噴火災害により短縮授業	
5	水	・三小・五小の二部授業について打ち合わせ会 実施	・育友会緊急常任委員会 (五小児童受け入れについて協議)
7	木	・五小児童、午後三小に初登校 (二部授業実施)	
8	金		・大火砕流により上木場・白谷の多数の家 屋焼失
12	水	・普賢岳噴火災害のため臨時休校 (～19日迄 仮転校児続出)	
17	月	・児童用ヘルメット自宅へ配布	
19	水	・「夏休みのくらし」自宅へ配布	
20	木	・一ヶ月早い「夏休み」に入る	
30	日		・大土石流発生(鎌田町・北安徳町を直撃!)
7 / 2	火	・職員家庭訪問(～6日迄)	
9	火	・五小第一仮設校舎(学級園跡)建設工事開始	
10	水		・天皇皇后両陛下、三小体育館に被災者の 御激励と御見舞いに訪れられる
19	金	・全校登校日	
22	月		・育友会代議員会(二学期の再開について)
8 / 1	木	・一学期授業再開式を実施	
2	金		・三小・五小育友会懇親会
3	土	・三五小対面式を実施	
9	金	・プールを開始する	
29	木	・五小第二仮設校舎(児童公園土俵跡)建設工事 開始	
31	土	・一学期終業式	
9 / 2	月	・二学期始業式	
7	土		・三・五育友会、三小グラウンドの灰取り合同 作業
10	火		・千本木町・上折橋町に警戒区域設定
12	木	・授業参観	
14	土	・通知表配布	
15	日		・大火砕流発生(大野木場小学校全焼)
18	水	・三小体育館使用可能となる(～日より避難所として使用)	
27	金	・台風19号の接近により臨時休校	
10 / 6	日		・五小、三小グラウンドにて運動会実施
27	日	・親子スポーツつな引き大会(115チーム参加)	
29	火	・県総合運動公園へ列車遠足実施(諫早市)	
11 / 16	土	・三小・五小合同で避難訓練実施	
20	水		・市P連主催降灰対策研修視察に出発 (鹿児島市～21日迄)
12 / 1	日		・市P連主催バレーボール大会に参加 (11チーム)

# 災害時の子どもたち

校長 橋本 徹也

八月一日から学校にまた元  
気な顔が並び、声が聞こえる  
ようになった。どの顔も、夏  
休み終えの黒黒とした顔では  
ない。都会っぽい顔のようだ。  
いつもと違う夏休みだったこ  
とを物語っている。

子ども達を丈夫に育てよう!!  
早くプールで泳げるようにし  
よう!!という意気込みから、  
教師と高学年の児童が一体と  
なって働き、プール使用がで  
きるようになった。

今、プールは三五小(珊瑚  
礁)子らの元気な声で満ちて  
いる。日焼けした顔も多くな  
ったようだ。学校では、九月  
後半まで水泳指導を計画して  
いる。

運動場の火山灰は、土埃と  
なって教師と子ども達を悩ま  
せている。

少しでも埃をしずめて、気持  
ちいい中で体育や遊びがで  
きるようにと若手教師の早朝水  
まき奉仕が続いている。その  
場しのぎの応急で根本解決に  
はならないが、子どもを思う  
教師の熱意が伝わってうれしい。

わらなくなる。心のアンテナが  
さびてくるのがこわい。「環境  
が人を作る」という。心のア  
ンテナが光っている子どもに  
育てたい。

島原市へ災害見舞いが相次  
いでいる。子ども達が、その  
礼状を書いている。それへの  
礼状がまた届いたりして善意  
の連鎖反応が生じている。「う  
ちの孫が久美子というの。島  
原の久美子さんが何だかよそ  
の人ではないような気がして  
。」と書いてあったり、自分  
の災害体験や学童疎開とダブ  
らせてお便りを下さったりで、  
生きた道徳教材ができそうで  
ある。人の心の「優しさ」、「温  
かさ」を知り、「ありがとうの  
心」、「他人を思いやる心」な  
どをしみじみと感じさせたり、  
今(災害時)だからできる心  
の教育を特に強調したい。



# なつかしの島三小

五小教務主任

松尾 好則

昭和五十五年四月、五島か  
ら期待と不安の中、この第三  
小学校へ転勤して来て、昭和  
六十一年三月までの六十年間  
公私共にお世話になりました。  
そして第五小学校へ。

三小在勤中は主に高学年を  
担任し、育友会活動では体育  
部を中心に勉強させていただ  
きました。が、育友会の方々の  
熱心な活動ぶりや先輩の先生  
方の優れた指導ぶりと得るも  
のがたくさんありました。そ  
れ以来、今日までお付き合い  
いただいている方もたくさん  
いて、本当に幸せ者だと深く  
感謝しております。

六月三日の大火砕流で三小  
へ避難して来た時はしばらく  
の間、三小へ転勤して来たよ  
うな錯覚さえおぼえました。  
子ども達の転出・仮転出とあ  
つという間に半年が過ぎまし  
たが、三五小の子とも達もお  
互い仲良くなり、たくさん  
友達ができたことをうれしく  
感じています。

いつまで続くかわからない  
この普賢岳災害ですが、負け  
てばかりはいられません。三  
五小の先生方、子ども達が力  
を合わせて、この災害をプラ  
スにするように頑張ってい  
かねばならないと思います。三  
小の皆さんには大変ご迷惑を  
おかけしておりますが、今後  
ともよろしく願います。



仲よし三五小の子ども達

## 専門部活動

## 運動場の灰掃除

環境部長 小松 広海

風により舞い上がる灰を、  
少しでも少なくできたらと運  
動場の掃除を行いました。午  
前中、三小・五小の児童の皆  
さんにトンボで灰集めをして  
もらい、午後両校の先生・代  
議員の皆様により土のう作り、  
搬出に汗を流していただきました。  
まだ火砕流頻発の時期  
で心配をしていましたが、九  
月十五日を最後に大きな降灰  
もなく、二度と灰掃除をしな  
いでいように祈っています。  
ひどくなったら何度でも、  
気持ちだけは山に負けないつ  
もりで普賢岳に対したいと思います。

# 編集後記

「噴煙たなびく普賢をあおぎ、  
負けじと学ぶ三小の子」

諸々の行事ができぬ中、し  
ばしの別れ、出会いと、めま  
ぐるしい一九九一年も残すと  
ころ十日あまり、子ども達の  
笑顔と笑い声に励まされ、今  
年最後の「がんばり一四号」  
をお届けします。

来る一九九二年が幸多き年  
でありますように。皆様、  
良いお年をお迎え下さい。  
(広報スタッフ一同)



# 噴火災害に負けず頑張る 五小広報部の皆さん



噴火災害以来、各地に分散する仮設住宅での生活は、地域での保護者と子供の絆を断ち、子供会や育友会活動も停滞を余儀なくされているようです。避難生活の続くその中で、広報部の皆さんは今迄に三回の広報誌（梅ん花）を発行され、なかなか企画・編集会議もできない中で情報収集の為奮闘し、紙面作成をやりとげられている様子が感じられ、又、困難辛苦を乗り越えて頑張っている思いがひしひしと感じられました。三小に五小が併設され、三小（三小と五小の子ども達が珊瑚礁のように仲良く美しく）を合言葉に、今後とも三小とのコミュニケーションを通して、よりよい広報誌作りをしていきたいと思っております。（広報部）

## 秋の遠足



心配だった天気も晴れて、今日は秋の遠足だ。六八四名、はじめその列車遠足です。南島原駅から本諫早まで、鳥鉄をせいかで行く。車窓から見ると雲仙の連山「あ、鳥原城だ」「落石ドームだ」「あれが、北東斜面だよ」子どもたちの発見の音が、車内に満ちる。

今年には恒例の「吾賢登山」「眉山一周」はできなかった。  
県立諫早運動公園へのリフレッシュ遠足となった。

広い芝生、広い運動場……、さうそくお弁当だ。

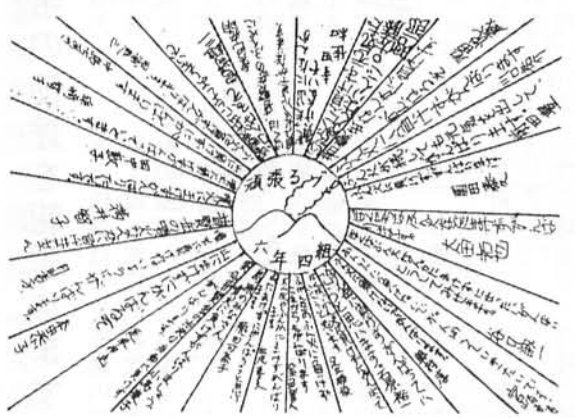
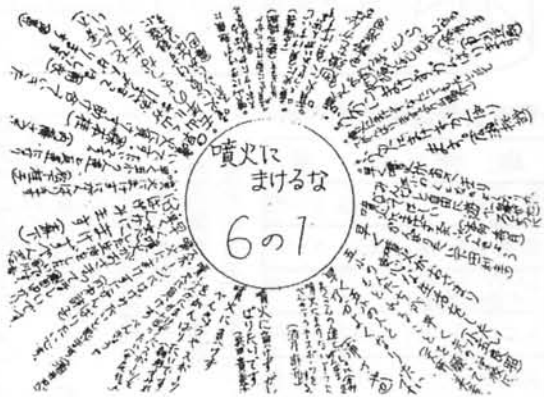
ドッジボール、サッカー、バドミントン、バレーボール、ゴムとび……

思い思いの運動に花が咲く。青い空に向かいそわそわする子どももいる。高い空だなあ——

明日へハエネルキーを、いっぱいたくわえ遠足の一時が過ぎていく。

（平成三年十月二十九日）

## 噴火に負けないぞ!! (子ども達のメッセージ)



中国から激励のお手紙

校長 橋本徹也

普賢岳の噴火で苦しんでいる島原の子どもたちをばげます手紙が十一月十四日とどきました。

昨年六月、揚子江流域で大水害が起きた時、日本の子どもたちから激励文や文房具など頂いたことを知っていた瀋陽市の子どもたちが、そのお返しとしてはげましの手紙を書き、長崎総領事を通じて島原市へ届けられたものです。

親愛なる日本の長崎県島原市第三小学校児童のみなさんへ、

こんにちは、僕は中国遼寧省瀋陽市寧山町の小学校五年生の生徒です。

新聞とテレビ放送のニュースで、長崎近くの普賢岳の火山が九〇年十一月に噴火が始まって、今も続いていて、あなたたち故郷の人々の命や財産にとても大きな損害をもたらしたと聞きました。特に私たちの先生の話しによると、とても多くの児童が学校へ戻れないと聞き、僕は心からのあいさつとお見舞いを申し上げます。中国と日本は一衣帯水の仲のよい国であり、中国と日本の両国の児童は長い期間友好的な交流の中で深い友情で結ばれています。

僕は、あなたたちが日本政府の援助で早くこの自然災害に打ち勝つて、改めて学校へ戻って勉強ができるように心から願っています。

私たちは、共に中国と日本の両国の代々の友好と世界の平和のため勉強を頑張ってくださいませよう。

瀋陽市立寧山町小学校

五年三組 劉 曉葉

亲爱的日本小朋友们  
你们好!  
こんにちは!  
瀋陽市寧山路小学五年級的學生。在報紙和廣播中所列長崎附近的普賢岳火山從九〇年十一月開始噴發至今，給你們家鄉人民的生命財產帶來了很大損失，特別是老師說有很多小朋友不能返回校園上學，我從心裏感到難過。在這裏我向你們表示親切的問候和慰問。

……以下略です。

(原文のままです。)

噴火災害 義援金の使途を報告します

昨年の雲仙・普賢岳の噴火災害以来、私達の島原市や深江町、それに近隣の各地域にあつては甚大な被害を受けています。

これに対して全国各地から沢山の激励や支援がなされ、私達の三小育友会へも島原市PTA連合会を通じて義援金が三回、昨年五百万円、前年度末に二百万円配分されました。

この義援金の趣旨に沿った使途について、三小育友会で協議しました経過と、これまでの結果について次の通り報告します。

まず、趣旨の説明と使途方法については、前年度二学期に既に周知の上、アンケート調査を致したところですが、その集計の結果、

- 一、児童の役に立つ学校図書などの充実。
  - 二、学校施設の整備。
  - 三、後世へ感謝の意を表す為、記念碑などの建設。
- などの意見が殆どでした。

一方、代議員会で使途内容については、常任委員会に委ねる旨の協議がなされましたので、アンケートに基づき協議した結果、

- 児童個人に配布する。
  - 防災施設や降灰対策の一環として環境の整備などを図る。
  - 学校の要望に対しての備品整備。
  - その他、流動的な災害に対処するため基金を設ける。
- 等々の方針のもと、使途配分を決定しました。

今年度の総会で、今後の義援金の使途については、常任委員会の決定に任せる旨の協議がなされましたが、極力、皆様の意見をよく聞いたうえでの運用を致したいと存じます。

尚、最後になりましたが、平成三年度配分の義援金については、会計監査を受けておりますことを報告します。

(育友会会長 友永峰昭)

育友会義援金使途内訳

品名	金額
花苗代	40,000円
図書券・他	1,557,517円
CA・TV・デッキ一式(含む工事費)	371,831円
トランシーバー4台	147,909円
灰取りクリーナー	160,001円
屋外用テント	595,001円
キャンプ用品	15,739円
美化用プランター	278,513円
腐葉土	37,416円
学校環境整備費 (校内廊下の鏡 ・時間割掲示板 ・大工道具一式 ・トイレクリーン)	370,240円
二宮尊徳像	435,000円
合計	4,009,160円

\*今までにこういうものに活用しました。

# はじまりますよ！ 学校週五日制 私はこう思う！

校長 橋本 徹也

今年九月から、毎月第二土曜日をお休みとする

学校週五日制が行われま  
す。これからの時代をに  
なう子どもたちに、頭でっ  
かちでなく、  
人間として力強く生きる  
たくましさを育てようと  
するのがねらいです。

最近の子どもたちの特  
徴として、  
○体格はよいが、体力が  
ない。  
○指示待ち的で、自ら判  
断しようとしれない。  
○仲間づくりが下手で、  
こもりがち。  
○奉仕的な勤労の心がう  
すい。  
○明るい、たくましさ  
がない。

○無関心・無気力・無感動  
などがあげられています。  
当分、月一回の第二土  
曜日ですが、この休  
日を有効に使って、この  
ようなマイナスマネジメント  
のけて、明るくたくまし  
い、自分から行動し、仲  
間と協調していける子ど  
もへの成長をと念じてい  
ます。

学校では、子どもたち  
が自分から学びとる学習  
に心がけ、学力が下がら  
ないように努めています。

九月より、毎月第二土曜日  
が休みになるといわれていま  
すが、親達の気持ちとしては、  
この日が何の意味があるのか、  
ばくぜんとした受け止め方し  
かしてはいないと思います。学  
校側や教育委員会のはつきり  
した指針を示してほしい。た  
とえば、休日が増えることに  
よって、勉強面については、  
教科書の授業回数のかね合い  
により、授業の進み過ぎの結  
果、くわしく教えることができ  
ないのではないだろうか？  
勉強のおもしろみがなくなっ  
たり、よく理解することがで  
きない子供が増え、それによ  
り塾通いの子供が増え、ゆとり  
を持った楽しい休日を過ご  
すことができないのではない  
かという気がします。

又、最近では、共働きの家  
庭が増え、核家族が進んで  
いる現在、昔のように祖父母  
とのふれあいもなく、家庭で  
は子供一人孤立し、ファミコ  
ン、テレビ、本などを見て過  
ごす機会が多くなり、余り良  
い制度とは言えないと思いま  
す。  
もし、制度化しようとする  
なら、親の職場が、同一の休  
日をとることにより、親子の  
ふれあいができるのではない  
でしょうか？

## 【六年生の保護者】

## 【三年生の保護者】

いよいよ九月から学校五日  
制が実施されます。新聞等で  
賛否両論を唱えられています  
が、どの様に対応すべきか迷  
うばかりです。社会全体が週  
休二日制なら、すんなりと受  
け入れられるかもしれませんが  
が、現実には共稼ぎ、自営業の  
家庭も多く、子ども達に対し  
て今までできなかった体験を、  
家庭の方でさせてほしいと言  
われても、なかなか実行でき  
ないのではないのでしょうか。  
あまり考え過ぎると、悪い事  
ばかりが目につけてきますの  
で、肩ひじを張らずに受け止  
めたいと思います。

私は、子ども達と五日制に  
ついて話し合い、自分達はど  
うして過ごすか、また、何か  
に挑戦していくのか身近な事  
について話して、前向きに考  
えてみようと思えます。漠然  
と悩まず、足元から見つめて、  
今何をするのが子ども達と親  
にとつて大事な事で、楽しい  
事なのかを考えて、九月から  
の学校週五日制に備えていき  
たいと思います。  
この機会を与えられ、考え  
をまとめる事ができ、感謝致  
します。

先の六月十二日、育友会、  
諸先輩、又先生方のご協力  
を頂きまして学級代議員、  
先生方の永遠のテーマであ  
る「学級部会に一人でも多  
くの方に参加してもらうに  
は、どうしたらいいのか」  
を勉強しようと研修会を開  
きましたところ、  
私達の予想を遥か  
に越えた七十名か  
らの御出席を頂き  
ました。この事は、  
いかに代議員・先  
生方の関心が高く、  
「何とかしよう」と  
いう気持ちの表れ  
ではないでしょう  
か。各学年ごとの  
小グループに別れ、  
その中に、永年育  
友会で活躍され、  
実践を重ねてこら  
れた先輩方にアド  
バイザーとして入  
ってもらい、アドバイスを  
受けながら肩のこらない話  
ができるよう、お茶・お菓  
子など用意しました。その  
かいあってか、本音での意  
見交換が活発に行われました。  
ごく一部ですが、紹介し  
ます。

学級代議員研修会を  
開いて  
学級部長 山下 博文

○ 子供と親の名前を早く  
えるよう名札をつける。  
○ 親子レクレーションを  
画。  
○ 仕事で時間がとれない  
が多いので、夜の部会  
もいいたいの。  
○ 学級部会という名前が  
たい。

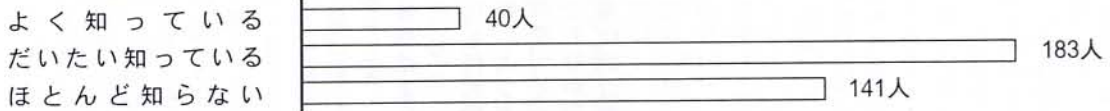
○ 共働きの家庭  
多いので、参  
できない方に  
気をくばり、部  
会の内容を知  
せ、連絡を密  
する。  
等、とにかく皆  
ん一生懸命だと  
う事がひしひし  
伝わってきました。  
部会を盛り上げ  
て行くのは、父兄  
の皆さんです。  
議員・先生方が  
つておられます。  
ぜひ一回でも多くのご参  
を!!  
この研修会が、今後の  
TA活動・学級部運営に  
役に立つはずですよ。ご協  
下さった皆さん、ありが  
うございました。

○ 先生と親の親睦を早めに  
ます。

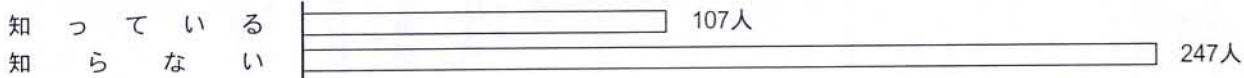


# 学級部アンケートより (抜粋)

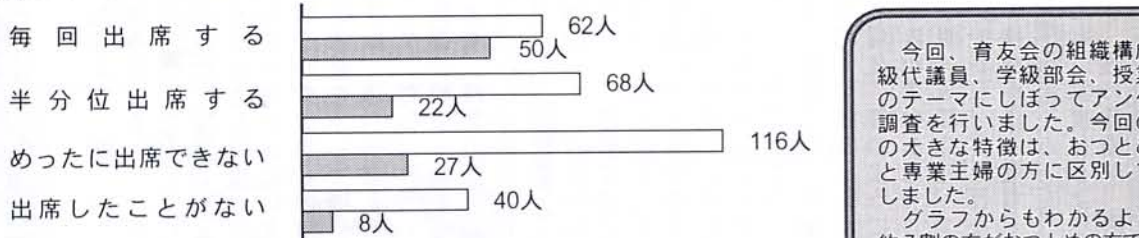
○ 育友会の組織構成を知っていますか。



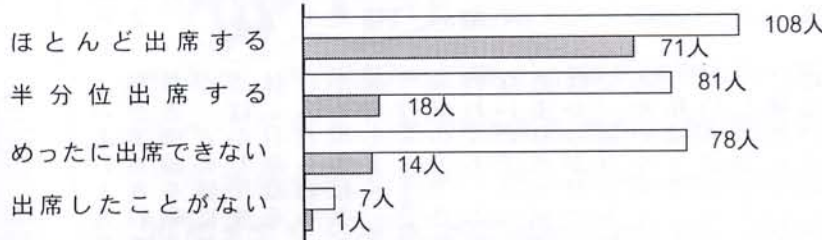
○ 現在、常任委員の内、半数までは代議員以外の一般会員より選出できる制度が行われていることを知っていますか？



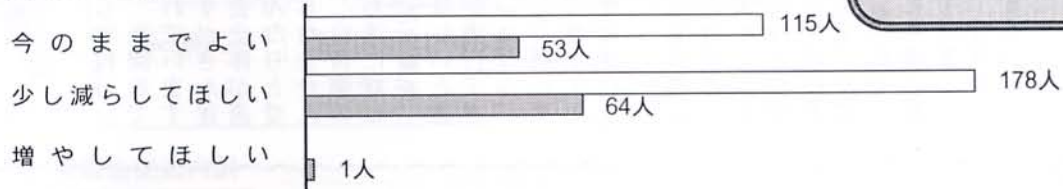
○ 学級部会の参加について。



○ 授業参観の参加について。



○ 授業参観の回数について。

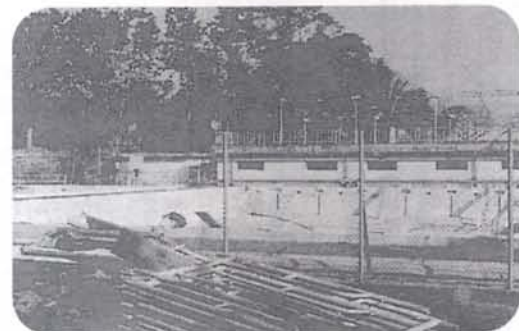


今回、育友会の組織構成、学級代議員、学級部会、授業参観のテーマにしぼってアンケート調査を行いました。今回の調査の大きな特徴は、おつとめの方と専業主婦の方に区別して調査しました。

グラフからもわかるように、約7割の方がおつとめの方でした。また、主婦の方が学級部会、授業参観ともほぼ出席されているのに対し、おつとめの方は部会にはあまり出席されていないようです。おつとめの方は、やはり時間のやりくりに苦労されているようです。

また、現在の授業参観の回数については、7割近くの方が少し減らして欲しいとお考えのようでした。

御協力ありがとうございました。… (学級部)



三年ぶりに復活になった「学級園」です。かわいい花が咲いているよ

待ちに待ったプールの屋根が出来つつあります。今年元気がいっぱい泳げるでしょう



普賢岳のことも勉強できる「岩石園」です

三小も少しずつ変わります



# 夏休みの各町内子供会行事

町名	町内	内容
南一丁目	有明の森	ブル(有明町)
新山二丁目	諏訪の池	飯合水炊とバーベキュー 日帰り
新山西	小浜マツヤ	プールで水泳 森岳公民館に一泊
崩山町	白雲の池	キャンプ 一泊
坂上町	北高	来いこいの村 一泊(8/28~29)
坂下・八幡	市	内 ボーリング大会と昼食会
西八幡町	小浜マツヤ	ブルと食事
栄町	市	内 ボーリング大会と昼食会
蛭子町	北高	来いこいの村 日帰り
白土桃山二丁目	中	止
白土桃山二丁目	小浜マツヤ	ブル 日帰り
霊南	霊南埋立地	キャンプ 一泊
浦田上	雲	仙 スバハウス 日帰り
浦田北	?	
浦田元船津	小浜マツヤ	ブル 日帰り
津町有馬船津	中	止
みなと	雲	仙 スバハウスで水泳と夕食会 日帰り
湊町	雲	仙 スバハウスで水泳と夕食会 日帰り
白山	小浜マツヤ	ブルで水泳 日帰り
下川尻	市	内 九十九ホテル 日帰り
緑町	白雲の池	キャンプ
南下川尻	市	内 九十九ホテル 一泊



## 釧路沖地震災害へ

— 131, 113円 (三小分) —

皆様のご協力で釧路沖地震災害の救援金がたくさん集まりました。

尚、皆様よりの金額と同額を加え、市P連より釧路へ送金しました。誠にありがとうございました。

\* 釧路沖地震災害の礼状をご紹介します

謹啓 春の一番遅い釧路にもやっとなつと桜の蕾を見る季節になりました。

釧路沖地震に際しましては、島原市P連の方々のおかげで心から感謝とお礼を申し上げます。

釧路沖地震は、1月15日午後8時頃発生し、関東大震災に匹敵する大地震でした。釧路市全体の被害は予想を越え、時間がたつと共にその範囲が広がっております。

この度の島原市P連の皆様の善意に釧路市P連の役員も勇気づけられております。

尚、お見舞金を有意義に使わせていただくべく、市P連と教育委員会が一体となって検討中でございます。

まずは取りあえずお礼にかえさせていただきます。

敬 具

5月17日

これからの、どんな災害がおそってくるかもしれませんが、一人一人の力は少しでも集めるとすこいなあと、つくづく感じました。

先日のプール清掃には、皆さんの父兄の方々、先生、役員の皆様、小さいお友達、そしてサッカー部の生徒達ご参加ありがとうございました。おかげさまでプールに積もっていた灰が、皆様の汗で洗い流せました。除去した灰はなんと、降灰袋に700コ、800コ程でした。一人一人の力は少しでも集めるとすこいなあと、つくづく感じました。

環境部副部長

天野 美智子

ブル清掃について



でも三小育友会は、一致団結してやってみようという自信がわいてきます。皆様本当に協力ありがとうございました。最後に、休みの時間に飲んだジュース、とってもおいしかったです。

校長先生ありがとうございました。



## 「知っていますか？子供たちを」

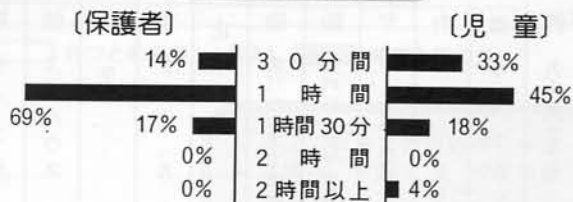
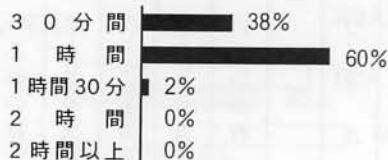
広報部では、児童の放課後の生活、自宅学習等を保護者がどれくらい理解しているのか疑問を持ち、アンケートを行いました。実施方法は無記名で、1～4年生が保護者、5・6年生は児童・保護者に同じ内容の設問を行い、比較するようにしました。尚、実施対象を各学年1クラスに限定しました。

(内容を抜粋しました)

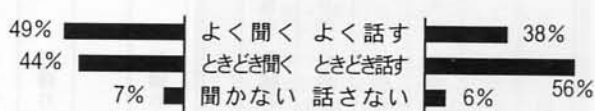
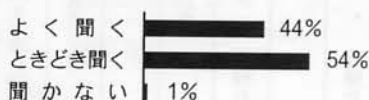
### 1～4年生

### 5・6年生

1. 毎日の家庭学習(宿題も含む)の時間はどのくらいが適当と考えますか。○をつけて下さい。



2. 学校のできごとを子供からよく聞かれますか。



3. 家庭で手伝って欲しいことはどんなことですか。

- ①食事の準備・あとかたづけ
- ②自分でできること
- ③掃除

- ①身の回りの片づけ
- ②掃除
- ③炊事

- ①皿洗い
- ②料理作り
- ③風呂準備・風呂洗い

4. 子供(家の人)から言われてうれしい言葉はどんな言葉ですか。

- ①ありがとう
- ②ねぎらいの言葉
- ③おいしい

- ①ありがとう
- ②おつかれさま
- ③おいしかった

- ①ありがとう
- ②がんばったね
- ③よかったね

5. 子供(家の人)から言われたくない言葉はどんな言葉ですか。

- ①ばかにした言葉
- ②うるさい
- ③大きい

- ①くそばばあ
- ②やかましい
- ③わかってる

- ①バカ
- ②勉強しなさい
- ③出ていけ・あっちいけ

6. 子供がいつも遊ぶ友達は何人ぐらいいますか。

- ①2～3人
- ②4～5人
- ③6人～

- ①4～5人
- ②2～3人
- ③6人～

- ①4～5人
- ②2～3人
- ③6人～

7. 子供はおもにどんなことをして遊んでいますか。

- ①スポーツ
- ②ファミコン
- ③ごっこ遊び

- ①ファミコン
- ②サッカー
- ③バスケット

- ①買い物
- ②バスケット
- ③ゲーム・ファミコン

アンケートの結果ができましたので皆様に報告いたします。

低・中学年では、予想に近い結果が出て皆様の考えとの相違は少ないと思います。子供からの言葉で「ありがとう」が95%以上の回答があった事を特に報告いたします。

高学年では勉強時間、学校のできごとの会話、お手伝い等で微妙に違いがありました。会話の設問では、子供たちが自分から進んで話しかけてくれる時に、時間をとって聞いてやればコミュニケーションをより良く取れると思われました。手伝いの設問でも、子供たちは「ありがとう」を言ってもらいたい為の解答になっています。

### 親子クリーニング大作戦

三月四日(土)、六年生は卒業記念の事業として三小校区内の道路のクリーニング大作戦を行いました。

校区内を三方向に分け、各グループごとに三小を出発して、下川尻方面、崩山町方面、広馬場方面へと道路上の空き缶ひろい、ごみひろい、清掃をボランティアで行いました。保護者もたくさん参加があり、ごみ収集など大変だったと思います。

子供たちは各自、自分たちで作ったプラカードを通行中の皆さんにもPRしていました。子供たちの自分たちから進んでやるボランティアは初めてだったと思いますが、たいへん有意義で貴重な体験だったと思います。(広報部)



### うま〜できるかな?

本年度から四年生・五年生・六年生を対象にコンピュータを使った授業が始まりました。現在は、理科の専科で使っています。内容は、天体の観測や植物の様子など盛り沢山です。子供たちは自分で操作して、大変興味を持って授業を受けています。担当の先生の話では、将来的には全教科で使える様に又、低学年にも授業で使える様にしたいとの事でした。楽しみなことですね。



### バイキング給食

三月六日(月)、六年生を対象に三小で初めて「バイキング給食」が行われました。

健康部・島原市教育委員会共催で行われた訳ですが、初めてという事で健康部のお母さん方は準備に大変だったと思います。

メニューは、おにぎり、焼き鳥、イカフライ、フルーツ、サラダ、やさしいスープなど盛り沢山で、子供たちは大喜びでした。おかわりを五回もして、おにぎりを六個食べた子供もいました。校長先生の話では、卒業記念として毎年行いたいとの事でした。また来年が楽しみですね。(広報部)



### 生活指導について

松崎 亮 介

私は、これまでいろいろな子どもの問題行動にかかわってきました。

今回は一つに絞って、金銭にかかわる問題行動について考えてみたいと思います。

今、物が豊富にあり、お金にもある程度不自由しないため、品物や金銭の大切さがわからない子どもが増えています。ここ数年の間に起こったお金からんだ事件として、次のようなことがありました。

- 家の棚にあるお金や、サイフの中から抜き出したお金をお菓子やゲームに使う。
  - 高学年が、低学年から数回にわたり金品をおとし取る。
  - 友だちの家に遊びに行き、その家に置いてあったお金を取る。
  - 万引きが増加し、あるクラスでは半数以上が経験者で、中には何十回も取ったことのある子どもも数人いる。
  - 十万円を越えるお金を持って、ゲーム機を買ったり遊びに使ったりしている。
- これは、ほんの一例です。私たちの知らないところで、ほかにも起こっている可能性は十分にあります。では、子どもはいつ頃から

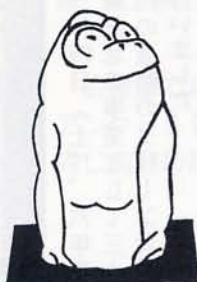
万引き等をするようになるのでしょうか。学校で調べた結果、その多くが低学年頃からです。中には、入学前から始まっている子もいます。子どもたちに金銭からんだ問題行動をさせない対策として、家庭での金銭管理をきちんとし、おつり等の小銭を子どもの目につかないようにする。子どもの所有物を把握しておき、新しい物には気を配る。物の大切さを教え、すぐ買えないことなどがあると思わせます。今年度は、まだ金銭からんだ事件は聞いていませんが、学校側としても、全職員総がかり、総ぐるみで、子どもたちが問題行動を起こさないうための積極的な指導に心がけていこうとします。これからも、保護者のみなさんと学校が力を合わせて、子どもたちの生活指導に取り組みでいきたいと考えています。よろしくお願ひします。



三太君が来た!



三小の校庭に可愛い石の彫刻が立てられ、子どもたちの人气的的になっていきます。この石像は、三小同窓会々長を務める山本篤五郎さんが寄贈されたものです。石像の名前は三小にあやかった「三」と、元氣者を意味する「太」を合わせ「三太」と命名されました。子供たち同様に父兄の方々も学校に行かれた時には声をかけ、可愛がつて下さい。



飄筆池のシマバライチゴ 山田スミコ

シマバライチゴは、島原市杉の元で一九〇四年に初めて発見されたのでこの名が付きましました。日本では島原市、深江町、西有家町、大村市黒木、熊本県球磨一勝地で確認されただけで、ほかには無い珍しい植物です。島原市南千本木町岩下の群落は、長崎県の天然記念物に指定され保護されています。一九九一・五・二四から始まった火砕流や土石流で、北上木場や南上木場や南千本木の大部分はすべて無くなりました。

私は、何とかシマバライチゴを絶滅の危機からすくおうと一九九三・四・一七、西有家町戸の隅で種を採集し蒔き、実生に成功しました。一九九四・四・二一、第三小学校五年一組の子ども達も種を蒔き、眉山に返そうと話しました。この模様は、四月二七日放送NBCほっとポテト「シマバライチゴを救え」で紹介されました。

一方、火砕流は上木場や千本木や麻畑のシマバライチゴを焼き尽くしたけれど、眉山周辺に鳥が散らしたシマバライチゴの種が芽を出す条件も作ったのです。降灰によって山の木の葉が落ちて、地面に日が当たるようになったこと、地面に積

がつてくる水分を蒸発させず、いつも湿った状態を保つたことなどで、今まで眠っていた種が目覚めたのです。

飄筆池のは約1aばかりの敷に五から六株の大株が点在し、群落が出来つつありました。ここは、島原市の公園化の計画もあると聞きますし、第三小学校の校区でもあるし、島原市にある貴重な湿地であるし、どうにかして県に頼んで千本木に変わって天然記念物指定地をお願いできないものかと思っています。

今や環境教育が世界的視野で叫ばれる時代になりました。地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、天然資源の減少、家庭排水など、どれも今の子ども達が将来直面する問題です。三小地区にも、すばらしい自然が残っています。自分達の地域の自然に感心を向けることから始めてみたらどうでしょうか。



平成 7 年 目で見える専門部活動紹介



# 島原南高チームが優勝!

## 県学校給食調理コンクール

学校給食の食事内容の充実に向上を図る目的でこのほど、「学校給食調理コンクール」が(財)長崎県学校給食会で開かれ、県内の七ブロックから代表チーム(1チーム11名)が栄養士と調理員ら3名)が出席して作品を競った結果、課題献立(米飯と副食)の部で見事、島原・南高ブロック代表チーム(栄養職員11名、調理員2名)が優勝した。

献立は食物繊維の多い麦ごはんに、ふるさとみそ汁(地元でとれるじゃがいも、わかめ、そうめん)、いわしのすりみと海藻、野菜、とうふで作った「島原んてんぶら」、それにビタミンCがたっぷり入ったレモンあえを作った。おかず代は一人前百三十五円。オリジナル性の高い献立で審査員の間でも非常に好評だった。

八〜九歳の所要栄養量(六百四十カロリー)を基準に学校給食向きの献立を、いろんな食品をバランスよく組み合わせ、見栄え、味のほか衛生面にも十分注意して工夫をこらした。



# 子ども110番の家の設置

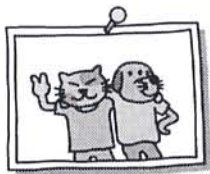
— 三小育友会でも立ち寄り所を!! —

神戸の小学生殺人事件は、近くに住む中学生だったと、日本中を驚かすと共に、教育のあり方、子育てのあり方を改めて考え直すきっかけとなりました。

さて、この問題も含め不審者や、変質者が出没している今、夏休みを迎えるにあたり、島原警察署管内に、子ども110番の家を設置して、不審者や変質者に遭遇した児童の安全を確保し、関係機関へ、すばやく連絡を取る事となりました。

これと合わせ三小育友会でも、一町内に五件程度の児童防犯立ち寄り所をお願いして、子どもの安全と保護をはかります。変な人に出会ったり、声をかけられたら大声を出して逃げる。

110番の家や児童防犯立ち寄り所、他にも人の気配のある所へ一目散と、家庭での指導をお願いします。



## 島原警察署指定



# 子ども110番の家

島原警察署  
島原地区防犯協会連合会

### 校区内に10件設置

- 広瀬商会 (南下川尻)
- 上の湯 (新山西)
- 松本商店 (新山西)
- ひかり美容室 (緑町)
- 池田豪喜様宅 (崩山)
- 正光印刷 (栄町)
- 吉田酒店 (霊南)
- ポエムタケモト (津町)
- 東洋電機 (坂上)
- 中末商事 (湊町)

### 三小育友会で設置



☆各町内に五件の割りあてがあります。  
町内訪問の時に発表があったと思いますが、このマークをしっかりと覚えて、安全の確保につとめて下さい。  
但し、低学年児童及び緊急の場合は、指定の家以外にも助けを求めていくように各家庭で指導して下さい。

# 地球を汚すのは誰!

## 白山地区 クリーン大作戦

2月6日(土)、五年生とその保護者が、環境学習のまとめとして、「白山地区クリーン大作戦～ゴミちゃんあっちへ行け～」をテーマに、ごみ拾いのボランティア活動を行いました。

5、6人ずつの小グループに分かれ、新山方面、湊町方面、坂上方面を中心に、一時間半かけて、40袋ほどのごみを拾いました。

「まっいいや、これくらいのごみ。」と思って捨てているかもしれない。だけど、世界中の人々がゴミを捨てたら、この世は「ゴミ世界」になるかもしれない。だから、一人ひとりが気をつけて、少しでも世界をきれいにしようという気持ちになれば、世界はきれいになるかもしれません。

石尾 優佳



### 保護者の声

子ども達は、燃えるゴミ、燃えないゴミ、ビン類、缶と分けながら収集しているの、煙草の空箱もビニールと紙に分別してゴミ袋に入れるなど、一生懸命に取り組んでいました。

感させられました。

町は、木がよごしているわけではない。水がよごしているわけじゃない。人間がよごしているんだから、もっとゴミについてマナーを守ってもらいたいと思う。

下田 洋平

## 内嶋さんの絵、最優秀賞に!!



「武家屋敷と子守唄」 内嶋百合香

※平成11年観光年賀ハガキに使用されました

### 子どもを守る

#### 『立看板』登場

生活安全部部长 矢加部

昨年、「島三小児童防犯立寄所」の設置につきまして、町内代議員様をはじめ、皆様のお世話になりました。ありがとうございます。きつと不審者に対しては無言の圧力に

なつたと思うし、子ども達には安心の基地になつたと思います。今度は、ステッカーから立看板(五月二十四日に皆様に製作した)という形で子ども達を守ろうと考えております。この看板を設置することにより、より多くの安全を

作れたらと思っております。どうか、いたずらされてもかまいませんので、二十四時間、交通の妨害にならず、子どもに見えるところへ設置して下さい。皆様の御協力お願い申し上げます。

### が ん ば 史上に残る

#### 観音開き!

この年度は、それまでのB5版からA4版への変換期にあたり、スタイルが毎号変わっていききました。

一四〇号では、校舎のイラストをバックに担任の紹介をするために、B5サイズを四枚並べて観音開きにするという画期的かつ印刷所泣かせのスタイルでした。

一四一号はB4両面の手作り印刷、一四二号はアンケート結果による健康特集を組むために、見開きB3というジャンボサイズになりました。

大きさのおかけではないですが、この号は2年連続で長崎新聞社主催のPTA新聞コンクールの奨励賞を受賞することができました。

一四三号はやっとA4版というまとも(?)な形式になり、今日まで続いています。

**子ども防犯連絡所**

不審者に注意。 非行防止。 三小 育友会

# 「総合的な学習の時間」ってなに？

- これまでの教科の枠を越えた学習です。
- 子ども達が、各教科等の学習で得た個々の知識を結び付け、総合的に働かせて課題解決ができるようにする学習です。

- ◆総合的な学習の時間の内容は、各学校で決めます。
- ◆自ら課題を設けて行う学習や将来の生き方を考える学習が行われます。
- ◆体験的な学習や問題解決的な学習が行われます。
- ◆グループ学習や異年齢集団による学習、地域の人々の参加による学習や地域の自然や施設を積極的に生かした学習など多様な学習が行われます。

## めあて

- ①自ら学び、自ら考える力の育成
- ②学び方や調べ方を身につけること

# 好きなんです こんな勉強

## 僕たちのやりたいこと

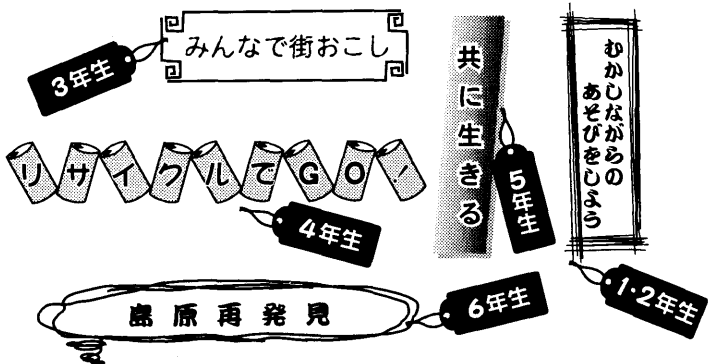
## 私たちの知りたいことを

## みんなで勉強しました。

平成十四年度から実施される完全学校週五日制に伴い、学習指導要領が改訂されました。新しい学習指導要領は、ゆとりの中で一人ひとりの子どもたちに「生きる力」を育成することを基本的なねらいとしています。

その特色の一つとして「総合的な学習の時間」が設定されています。自分たちの知りたいことを、自分たちで調べる。三小でも、各学年で工夫を凝らした取り組みがなされ、子どもたちは楽しみながら授業を創り出していました。

来年からは、「白山タイム」と名前が変わります。皆さんも子どもたちと共に学んでみてはいかがでしょうか。



# からだげんき '99

—子どもの生活習慣アンケート結果報告—

実施日 9/9 / 11 / 5  
回答率 87%

Do you remember (五つのコ食) ?

## ＜最近の子どもたちの食生活＞

- 1) 孤食：一人で食事する人が多くなった。
- 2) 子食：子ども中心の献立が多くなった。
- 3) 個食：一人分の食事や各自違うものを食べる形態が増えてきた。
- 4) 戸食：外食が増えてきた。
- 5) 五食：朝・昼・午後・夕方・深夜の五回の食事の機会の内、各自が2～3回の食事を選び、食事の摂り方が個人主義である。

去年の「がんば」一四二号（からだげんき）をテーマにした、アンケート結果からの生活習慣との関わりは、非常に好評でありましたので、今年もアンケートをお願いして、睡眠時間から朝食・排便について比較検討してみました。保護者の皆様への参考にしていただければ幸いです。

## 連続のアンケート

右の一四六号では、前年と全く同じアンケートを実施し、睡眠や朝食、排便といった基本的な生活リズムに変化があったのかをしらべました。

結果的には、大きな違いは無く、改めて生活リズムの大切さが改めて生活リズムの大切さが

を訴えることとなりました。

二年連続のアンケートというしつこさのおかげではないのですが、三年連続で長崎新聞社主催のPTA新聞コンクールで奨励賞を受賞することができました。

# 〈見〉て 〈聞〉いて 〈触〉れて 〈感〉じて 体験学習



ぼくは、一年生とえびをつかまえました。大きかったです。ぼくは、ちゅうくらのえびを二ひきつかまえました。メダカも一ひきつかまえました。うみでかにをいっぱいつかまえました。一年生が、かにはごはんつぶをたべるとおしえてくれました。ぼくも、水の生きものはかせになりたいです。

1・2年  
生き物見いっつけた  
5/29

二年  
つつみだ まさかず

6/2  
4年 社会科見学

豊永昇平

やけただれた人や、かみのけが全部ぬけおちた人やあかちゃんをだいたまましんでいたお母さんがいた。せんそうというのには本当にこわいと思った。「世界中が平和になりますように。」と心の中でいりました。



5年  
5/29  
宿泊学習

御園生 麻子

やきそば作りのとき、お肉を焼いているときに、お肉に火がついてとてもおどろきました。男子たちが「早くやさいをいれろ！肉がこげる！」といって、いそいで玉ねぎやキャベツとかいれるとけむりが出てきて、そのけむりをあびたらなみだがでてきました。けど、やきそば作りがとても楽しい思い出になりました。

## 「総合的な学習の時間」の実践を通して

### 研究発表表

平成十四年度から始まる完全学校週五日制にともない、戦後最大とも言われる教育改革（新学習指導要領の導入）が実施されます。その一つとして、各教科や特別活動とはまたちがった新しい領域となる「総合的な学習の時間」が創設されます。

この時間のねらいは、体験不足と言われる現代の子供たちに「自分で課題を見付け、追求していく資質や能力、態度を培っていく」ことであり、その学習内容は、各学校独自のカリキュラムに任されています。

本校では、島原市教育委員会の指定を受け、昨年度からこの「総合的な学習」の時間の研究を進めてまいりました。そして、二カ年の研究の成果を去る十一月八日に研究発表会を開催し、島原・南高約一二〇名余りの先生方に御検討いただきました。

この「総合的な学習の時間」は、三年生から六年生に導入され、平成一四年度には年間約一〇〇時間の実施が見込まれます。

本校では、十一年度二〇〇三〇時間、十二年度五〇〇七〇時間、十三年度七〇〇九〇時間と、三年計画で徐々に実践をふくらませていっています。

研究発表会では、三年生は、単元「もつと知りたいたわしたたちの町 白山」を学習しました。社会科「わたしたちのくらしと商店」の学習の補完として、みなと商店街の皆様に御協力いただき、十九店舗に分かれ店員体験をしました。当日はその学習のまとめとして体育館にミニ商店街をつくり学習発表会を開催しました。

五年生は、単元「共に生きる」を学習しました。障害者の方々の交流を通し、お互いのちがいを認め合い支え合いながら共生していくことの大切さを学びました。

六年生は、単元「島原再発見」を学習しました。島原市民一五〇〇人に聞き取り調査を行い、島原の特徴として最も推薦を受けた湧水、雲仙噴火災害、島原城（島原の歴史）の三つについて各学級ごとに追求しています。

当日は授業をしませんでしたが、四年生は、一学期に単元「わたしたちの平和」を学習し、地元のおじいちゃん おばあちゃん方の戦争体験をもとにレポートをまとめました。

このように、「地域の中で育まれていく、本校なりの総合的な学習」の実践を積み重ねていくところであります。

11/8



(文責 菅 秀康)

## 北海道有珠山噴火災害見舞金

北海道・有珠山噴火被災地の子どもたちを励まそうと、市P連（島原市PTA連合会）は十校連名で、伊達市、壮瞥町、虻田町の一市二町のPTAへ、激励の電子メール及び、五月八日に見舞金一五〇万円を送るとともに、島原市内の小中学生が描いた「がまだせフラッグ」一〇枚を小嶺教育長に寄託しました。また市内の小中学校では各校独自に見舞金を集めており、今月中にも届けられる予定です。

## すくすくジャガース少年

【平成十二年 試合成績】

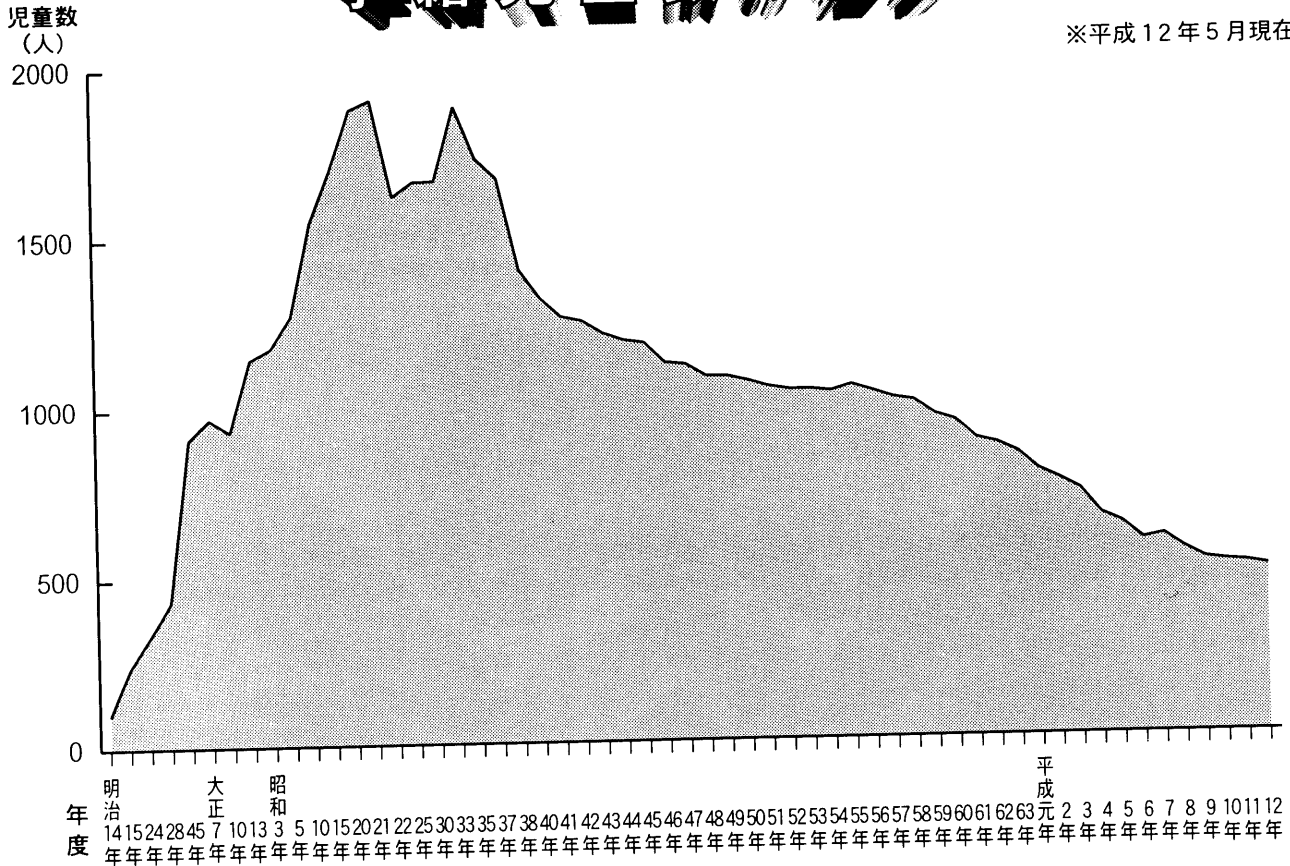


- 8/5・6 第十八回 男子全九州小学生ソフトボール大会 三位
- 11/3(金) 第七回スポーツハウス旗少年ソフトボール大会 Aクラス・Bクラス 優勝
- 11/12(日) 第一回教育委員会杯 Aクラス・Bクラス 優勝
- 11/19(日) 長崎県秋季少年ソフトボール大会 優勝



# 学籍児童数の推移

※平成12年5月現在



## 今こそ真実の愛を

上田 進

広報誌「がんば」一五〇号達成おめでとうございます。戦後の学制改革と引揚者で子供が増え教室不足、午前午後の二部授業一学級六〇名弱すしづめ教室、一学年六〜七学級、三小は一八〇〇余名半島随一のマンモス校に十七年連続勤務、戦後私の歴史教育の歴史でした。皆貧しくて修学旅行にいけない子が毎年いて親も教師も胸をいためました。

母親はほとんど家庭で主婦業、学校から帰ると「おかあさんだいま」「おかえり」の声で安心して外にとび出し友達と自然の山野で夕暮れまで遊びました。夕食も二世帯、三世帯兄弟も多くて賑やかなもの、友達との喧嘩や兄弟喧嘩も多かったです。育つていきました。家では両親や祖父母から、がまんすること・しんぼうすること・思いやりや家の手伝いなど教えられ、自分で考え育った時代の子供達も今は還暦をすぎ湊の屋台骨を支えてくれています。その後高度成長高学歴志向で教育過熱共働きて子供の数が減り「少子化」現象。母子密着と溺愛他との関わりがなくひとり遊びや通塾、子供の欲望をみたくす自由と放任人間形成の大事な機会が失われ教育も社会も家庭もオロオロしています。

善悪の論理、欲望抑制、努力精進、思いやり助け合い、感謝報恩のころはいつの時代も変わりません。きちんと子供に正面から向きあつて、きびしくても真実の親の愛情を注ぎたいものです。

## 育友会に思う

教頭 森崎 純 慈

育友会広報誌「がんば」一五〇号達成記念号の発行誠におめでとうございませう。毎年毎回の積み重ねが大きな花を開くことを改めて感じました。

さて、本校育友会は、専門部・学級部・町内それぞれが子どもたちの幸せな成長のために、学校との協力のもと、年間計画に基づいて自立して活動しています。今、生涯学習の推進で学社連携・学社融合の取り組みが進められる中、育友会活動はまさに学社を結ぶ重要なパイプ役だと思います。

これからも、三小育友会は、その伝統である自主性・協力生・独自性とみなぎるパワーを発揮し、新しい二十一世紀でもさらなる伝統を築いていくことを確信します。

がんばれ 三小育友会!!

# 平成の歴代育友会長からのメッセージ

平成11年度育友会長

小松 廣海

三小の子供達は昔からいつも元気いっぱい  
でとても気持ちがいいです。これからもず  
っと、この伝統が続いていってほしいと  
思います。「がんば」150号達成をお  
祝いたします。



平成元年・2年度育友会

相良 耕作

育友会は親達の再教育の場である  
会員の切磋琢磨を強力に進め  
未来を背負う輝く子供を育ててほしい。



平成9・10年度育友会長

古川 隆三郎

101号より  
110号までの  
愛する「がんば」を製作  
しました。

平成8年11  
月に開催され  
た長崎県PT  
A研究大会島  
原大会ではガン  
バ汁を1000人  
分作りました。いい思い出です。

三小の子どもたちよ  
いつまでもすばらしい  
笑顔を見せて下さい。



平成3・4年度育友会長

友永 峰昭

「体を鍛えてく  
ださい。」  
頭脳と手先で  
何でも出来  
る世の中が  
すぐそこに  
来ています。  
だからこそ、  
体を動かして楽  
しいこと、我慢  
することを体験し  
て下さい。  
そして、その中から強  
くてやさしい心を育  
めてほしいと思  
います。



平成8年度育友会長

荒木 修

本多育友会長をはじめ、広報部の  
皆さんと会員の皆様、先生方なら  
びにバザー実行に至るまでの多く  
のスタッフの皆様、本当にお疲れ  
様でした。

これから受け継ぐ子供達一人一  
人に希望を託し「がんば150  
号記念特集号」発行を心からお  
祝い申し上げ、三小育友会  
のご発展をお祈り申し上げます。



平成6・7年度育友会長

熊本 勇治

15年間の育友会活動で、  
印象に残るのはバザーと土俵づ  
くり等で楽しかった思い出ばかり  
です。今後も会員皆さんが積  
極的に参加されることを期待して  
います。

三小の子供達よ！悔いの残らぬよ  
うに、学校生活を楽しんで下さい。



平成5年度育友会長

内田 憲一郎

何故 どうして どうしたら  
いいのだろうか  
この言葉は これからの  
君たちにとって  
特に大切なキーワード  
そして 後輩達よ  
よく遊び よく学べ



【歴代育友会長】

就任	氏名	就任	氏名
昭和23年	大沢清人	昭和53年	前山四郎
昭和24年	永野参事	昭和57年	成瀬博功
昭和25年	織田万寿夫	昭和60年	小島健一
昭和26年	上田金市	昭和62年	松尾正敏
昭和28年	御厨米吉	平成元年	相良耕作
昭和32年	岩本一男	平成3年	友永峰昭
昭和33年	池田真	平成5年	内田憲一郎
昭和37年	藤田実	平成6年	熊本勇治
昭和39年	本田卷男	平成8年	荒木修
昭和43年	山本蔦五郎	平成9年	古川隆三郎
昭和49年	吉田重信	平成11年	小松廣海
昭和51年	本田武彦	平成12年	本多平治

【歴代校長】

就任	氏名	就任	氏名
明治26年	近藤源三郎	昭和49年	林田長
明治35年	清水東三郎	昭和51年	原口晃
大正4年	内藤政策	昭和54年	江島九香
大正7年	松永順一郎	昭和57年	江崎勝利
大正10年	小国志佐人	昭和61年	松本直
昭和17年	鬼塚富栄	昭和63年	伊藤富幸
昭和19年	大町利宗	平成3年	橋本徹也
昭和23年	宮崎崇三	平成6年	梅林次生
昭和33年	帆足清勝	平成8年	田中正之
昭和35年	菅藤恒保	平成9年	中島一雄
昭和38年	松本巖	平成11年	松島利彦
昭和43年	村田正二		

【歴代教頭】

就任	氏名	就任	氏名
昭和40年	村田正二	昭和58年	平野昭二
昭和41年	林田長	昭和62年	松崎俊雄
昭和43年	吉田博	昭和63年	小川俊幸
昭和47年	園田秀利	平成3年	前田勝義
昭和50年	本多末勝	平成4年	小山俊秀
昭和53年	尾形坦	平成7年	吉田恭子
昭和55年	下田昭明	平成10年	森崎純慈
昭和56年	大場昭生		

【歴代同窓会長】

※本校百周年を記念して同窓会結成の機運がたかまり、創設されたものである。

就任	氏名	就任	氏名
昭和52年	林田俊雄	平成5年	山本蔦五郎
昭和60年	池田真		

【本校沿革概要】 (抜粋)

明治	
7年 1月	芳州小学校創立 (浦田船津)
10月	湊小学校創立 (八幡人神社側)
16年 11月	旧島原藩主 松平忠和氏来校
19年 11月	尋常涯参小学校開設
21年 1月	初めて遠足会を実施 (焼山)
23年 3月	初めて春季運動会開催 (新山)
30年 4月	新校舎落成 (工費六千円)
45年 3月	新校舎 (白山の下) 落成 (工費 16,258 円八五銭 2 厘)
大正	
4年 11月	校旗制定 (いかり、桜、三本の波)
10年 5月	校規制定
13年 4月	三町村合併により島原第三尋常高等小学校と改称
昭和	
10年 4月	奇数偶数学年に分け、毎月家庭訪問を設定
11年 10月	二宮金次郎像建立 (在米 上田金作氏寄贈)
11年 11月	第一回スケッチ大会開催
16年 5月	運動場拡張工事 (白山町内会奉仕作業、11月完成 延 8000 人)
18年 3月	初めて B C G 接種
22年 4月	島原市立第三小学校に改称
23年 4月	育友会結成
25年 1月	子ども銀行開設
26年 7月	給食場建築 (474,500 円)
26年 8月	校歌制定される
26年 9月	木造 2 階立建新校舎校舎落成
29年 2月	創立 80 周年記念式
31年 7月	白山公民館併設
33年 11月	軽量鉄骨新校舎 (南校舎) 落成・校章制定
34年 4月	ソニー理科振興資金 100 万円受賞
35年 11月	学習池、水性植物園、野草園、岩石園造成
36年 4月	天皇皇后両陛下ご視察、理科研究発表会開催
37年 4月	特殊学級学級を 1 学級設置
43年 7月	プール落成建設記念碑建立
47年 7月	白山切り崩しによる校池地東側整地
50年 4月	情緒障害学級開設
51年 3月	体育館落成
51年 5月	100 周年記念式 (49年に100周年を迎える) 記念誌発行・記念碑建立・校旗新調
51年 12月	100 周年記念カプセル埋蔵 (2025年12月24日開箱)
52年 12月	本校同窓会結成
55年 1月	二階建て木造校舎全焼
56年 1月	三階建て新校舎落成

【本校沿革概要】（抜粋）

56年 9月	土俵完成
59年 3月	校歌（レリーフ）体育館に掲示
5月	白山公民館新築のため移転
63年 11月	給食場新設落成
平成	
元年 3月	<b>が ん ば 100号記念特集号発行</b>
3年 6月	噴火により、体育館が緊急避難所となる
6月	第五小学校を受け入れ、二部授業を実施
8月	公民館跡地の学級園をつぶし、第五小学校のプレハブの仮設校舎建設
8月	第五小学校、本校の空き教室にて授業
8月	相撲場、白蟻のためいたみがひどく解体保管
9月	台風17号、19号襲来、二宮金次郎像倒壊
3年 10月	育友会綱引き大会開催
4年 4月	二宮金次郎像（3代目）建立
8月	第五小学校、自校へ帰る
8月	降灰がひどくプール使用に困難をきたす
9月	学校週5日制による最初の休業日
6年 3月	プール上屋根完成
6月	土俵場完成
7年 4月	兄弟校（豊後高田市）5周年記念交流会
8年 2月	石像「三太」育友会同窓会長 山本蔦五郎氏寄贈
11月	がまだす祭 in 島原 6年生綱引き優勝
11月	長崎県PTA研究大会島原大会
9年 5月	トロッコ列車試乗体験学習
10年 5月	子ども防犯連絡所立て看板製作設置
10月	島原市内中学校完全給食開始
11年 3月	育友会広報誌「が ん ば」2年連続で長崎新聞社奨励賞受賞
4月	島原市教育委員会指定「総合的な学習」の研究開始
10月	石像「フラミンゴになりたかった象」 同窓会長 山本蔦五郎氏寄贈
11月	航空写真撮影
11月	三小同窓会創立125周年式典開催（かんぼ）
12月	岩石園改修（同窓会125周年記念事業）
12月	市P連研修会（三小が事務局校）
12年 3月	育友会広報誌「が ん ば」3年連続で長崎新聞社奨励賞受賞
5月	有珠山噴火災害による募金活動
9月	三宅島噴火災害による募金活動
13年 2月	育友会バザー開催（記念号発行のため）
2月	インターネット開設
3月	育友会広報誌「が ん ば」150号達成記念号発行

# に歩んできたモニュメント

## ① 天皇・皇后両陛下ご視察記念碑



昭和三十六年、昭和天皇・皇后両陛下ご視察を記念して昭和三十九年に建立。子ども達の理科実験や自作教具等を、親しくご覧になられた。

## 昭和30年代の風景



⑪

現在の本校舎ができる前の校舎で、講堂や音楽室として使用され、一時期二中の仮設校舎としても使われていた。

⑫ 白山

昭和47年、白山地区の土地整備により白山切り崩し工事開始、現在は白山の名だけ残る。校舎の横に立ち、当時の子ども達は遊びながら白山に自然のすばらしさを教わった。



## ⑨ プール落成建設記念碑



昭和四十三年、プールの完成を記念して建立。当時の校長松本巖先生の「身きたえ、心きたえ、大いなるゆめを」の碑文が刻まれている。

## ⑧ 土 俵



昭和十二年完成、その後昭和五十六年現在の位置に吉田司家の指導を受け、本格的な造りの二代目の土俵が完成。古式にのっとった土俵開きも行われた。現在も毎年恒例の相撲大会が行われている。

## ⑩ 皇紀二千六百年記念碑



昭和十六年、校地南側埋立張工事完了を記念して建立。白山町内会奉仕作業延べ人員 八、〇〇〇人

平成八年、三小同窓会百二十周年記念事業として親しみやすい「ゴリラの像」が故山本富治氏より寄贈された。



③ 創立百周年記念タイムカプセル

昭和五十一年、創立百周年を記念してタイムカプセルを埋箱。(開箱二〇二五年十二月四日)  
当時の教科書、学用品、記念事業の資料等がたくさん入っている。



⑤ 岩石園

昭和三十五年造成、昭和五十一年同窓会百周年記念事業として整備され、その後平成十一年百二十五周年記念事業として火山噴火を中心としたものに再び整備された。



④ 二宮金次郎 像

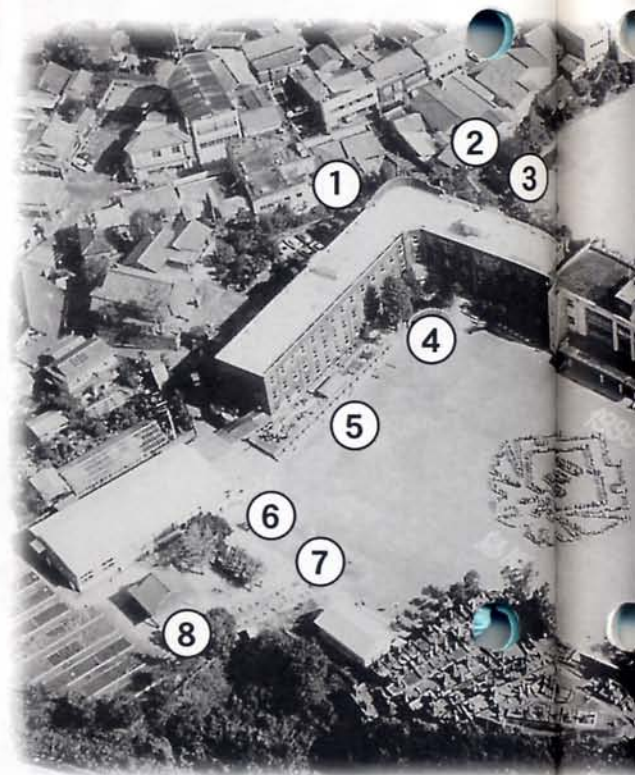
昭和十一年、当時ニューヨーク在住の上田金作氏(浦田船津出身)により寄贈。その後、大平洋戦争や、台風被害により損失、現在のものは三代目。



三小の 校舎とともに

② 創立百周年記念碑

昭和五十一年、三小創立百周年を記念して建立。(題字は故北村西望氏)  
その年建設された体育館で盛大な記念式典が行われ、他にもタイムカプセルの埋箱、記念誌の発行、同窓会誌「白山」の発刊があった。



⑦ フラミンゴになりたいゾウ

平成十一年、三小同窓会百二十五周年記念事業としてフラミンゴとゾウが融合したユーモラスな像が、三小同窓会より寄贈された。  
(作者は、三太と同じ、徳島の居上氏)



十二年ぶりのバザー大盛況

三小育友会報誌「がんば」が一五〇号を達成した事を記念して、記念誌を発行することに決まり、平成十三年二月四日(日)に午前十時から午後一時まで、その記念誌作成費用捻出のため、三小体育館と児童公園で盛大にバザーが開催されました。



雨の中でのブース会場準備



プールに集められたバザー商品



大にぎわいのブース会場



大盛況のバザー会場



買い物をするお客様



大人気のわたがしコーナー

御 礼

「がんば」一五〇号達成記念号を、発刊するという意気込みで考えたバザーでした。数多くの部会や様々なお願いをかさねて迎えた二月四日。準備は万全と思つたら、朝から無情の雨。しかし、各自が外でのテント設置など積極的に動いて頂き、逆に心強く感じました。たくさんの子どもたちと一緒に、雨が降る寒い外で笑いながらブースを担当して頂いたり、大きな声で商品の販売をして頂いたり、そしてなれない手つきでの先生方の応援販売。ふり返れば、値付け作業・商品搬入・事前準備などみんなの協力で成し得たバザーだったと思います。最後に多くの保護者・地域の皆さん、そして校長先生はじめたくさんの先生の御協力に感謝申し上げてお礼の挨拶に代えさせていただきます。

バザー実行委員長

矢加部 公男

編集後記

本多公則

今まで自分が編集をしていた時は、無我夢中ながらも中心こそりと今度の号が最高だと自画自賛していました。ところが、今回記念号の編集のため以前の号を読み直してみると、その時々々の広報部員さんたちの工夫と努力が感じられ、自分の「井の中の蛙」状態をただ恥じるのみです。次はどんな「がんば」に会えるか楽しみです。

芥 武夫

携わってこられた方々のその時代その時代の「がんば」に対する「思い」というものを強く感じられ、その「思い」をずっと大切に残していかなければいけないと改めて思いました。十数年に一度という記念誌発行の機会に参加させていただき、「自分の中の三小」を振り返ることもでき、大変心地よいひとときでした。

これからも「生き活き」として、ピリッとひと味違う「がんば」であってほしいと思います。

【バザー総決算】

〈収入の部〉

項目	金額
バザー売上	¥508,769
ブース売上	¥240,600
寄付金	¥30,000
合計	¥779,369

〈支出の部〉

項目	金額
バザー仕入	¥69,908
ブース仕入	¥134,608
光熱費	¥8,480
雑費	¥38,050
合計	¥251,046

森川 恭行

子どもが三小へ入学すると同時に育友会活動に参加させて頂き、そのおもしろさと難しさに感動しているとき、育友会広報誌「がんば」が平成十二年十二月発行で一五〇号を迎え、達成記念号を発行する機運が高まり、その資金作りには先輩達の意志を引き継ぎ「自分達の読むのは自分達の手で！」をスローガンに十二年ぶりにバザーが開催されました。このような時期に広報部として活動させていただいたことに感謝致します。





## 目 次

育友会長・学校長ご挨拶 .....	1
平成の歴代校長祝辞 .....	2～3
「がんば」平成元年度記事抜粋 .....	4～5
"  平成2年度記事抜粋 .....	6～7
"  平成3年度記事抜粋 .....	8～11
"  平成4年度記事抜粋 .....	12～13
"  平成5年度記事抜粋 .....	14～15
"  平成6年度記事抜粋 .....	16～17
"  平成7年度記事抜粋 .....	18
"  平成8・9年度記事抜粋 .....	19
"  平成10年度記事抜粋 .....	20
"  平成11年度記事抜粋 .....	21
"  平成12年度記事抜粋 .....	22
学籍児童数の推移表 .....	23
今こそ真実の愛を(上田 進) .....	23
育友会に思う(教頭 森崎純慈) .....	23
平成の歴代育友会長からのメッセージ .....	24
歴代育友会長・校長・教頭・同窓会長 .....	25
本校沿革概要(抜粋) .....	26～27
三小の校舎とともに歩んできたモニュメント .....	28～29
バザー報告・編集後記 .....	30

表紙・題字/故 式守伊三郎氏

### 「がんば」150号達成記念特集号

発行日 平成13年3月16日

発行者 島原市立第三小学校 育友会

編集者 記念特集号 編集委員会

印刷者 正光印刷

